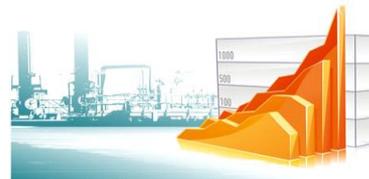


# ぎふ経済レポート



令和2年11月分  
岐阜県商工労働部

※企業等へのヒアリングは 11月24日～26日を中心に実施し、12月16日時点で作成。

# 景気動向

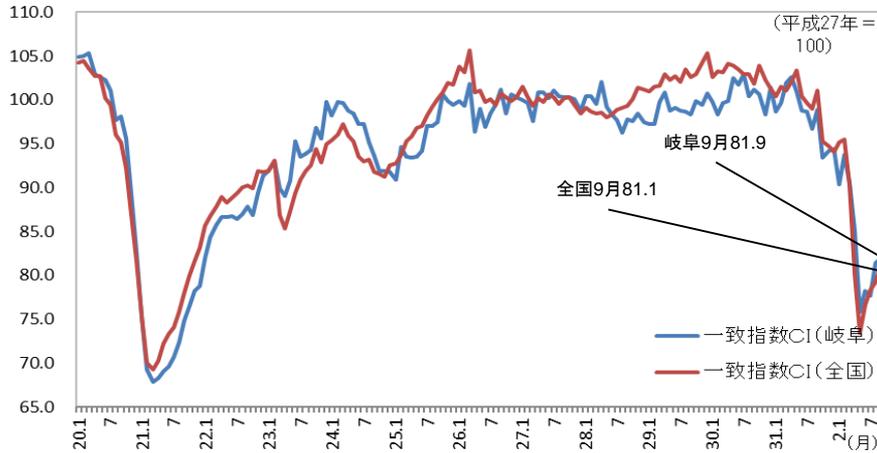
○9月の景気動向指数(一致指数)は、81.9で前月比0.5ポイント上昇した。

○10月の県内中小企業の景況感は、▲76で前月比2ポイント上昇した。

○10-12月の景況DI見通しは、製造業で15.2ポイント、非製造業で8.0ポイント改善した。

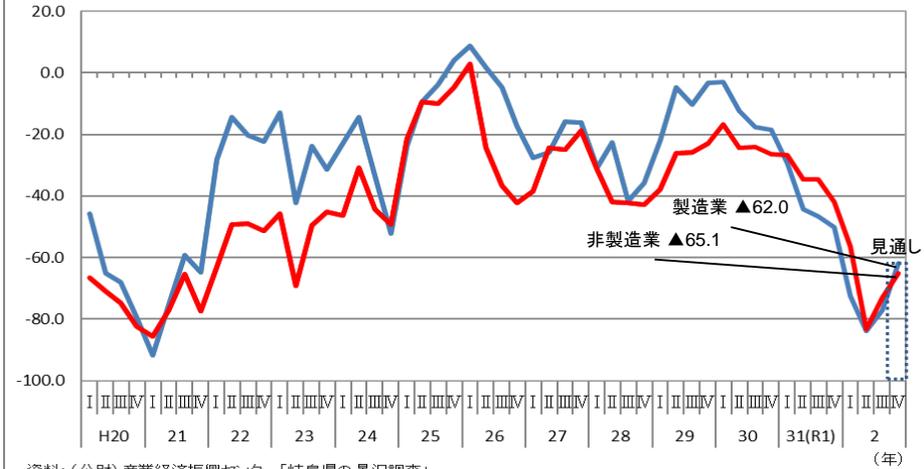
○同売上高DI見通しは、製造業で2.1ポイント改善、非製造業で▲0.3ポイント悪化した。

岐阜県及び全国の景気動向指数(一致指数)の推移

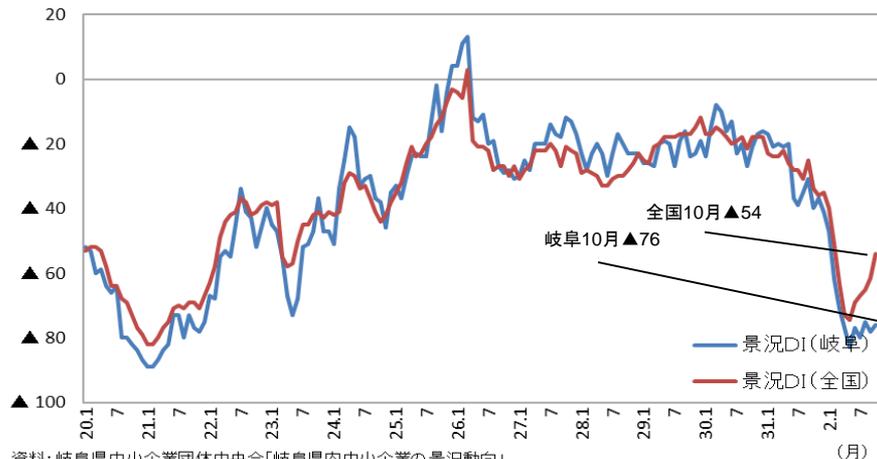


資料: 厚労省「岐阜県景気動向指数」内閣府「景気動向指数」

県内企業の景況DI(増加-減少)の推移

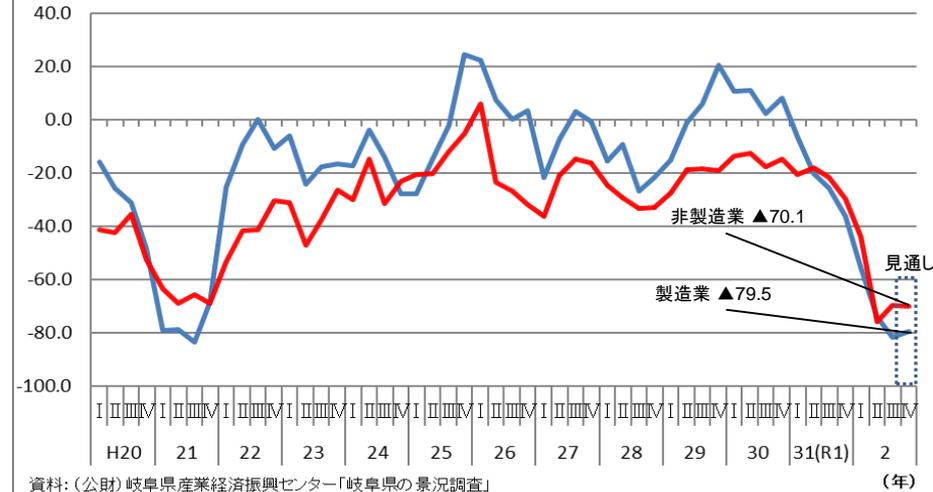


岐阜県及び全国の中小企業の前年同月比景況感DI(好転-悪化)の推移



資料: 岐阜県中小企業団体中央会「岐阜県内中小企業の景況動向」、  
全国中小企業団体中央会「中小企業月次景況調査」

県内企業の売上高DI(増加-減少)の推移

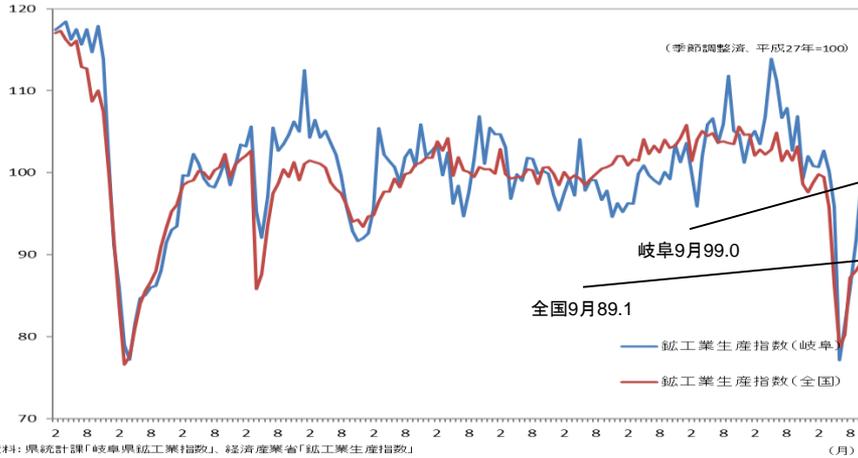


# 製造業

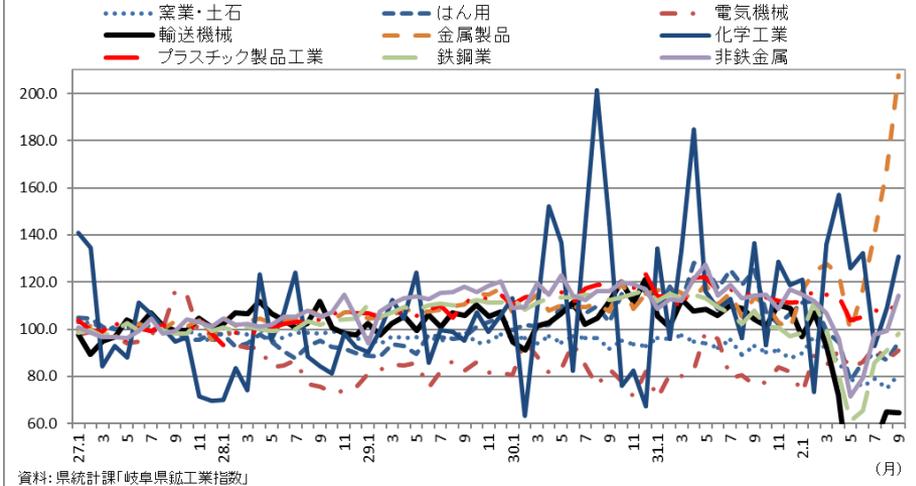
- 9月の鉱工業生産指数(季節調整済)は、99.0で前月比7.8%と上昇した。
- 前月比では、プラスチックと輸送機械を除く、主な産業の多くで上昇となった。

- 9月の主な産業の指数は、プラスチック製品工業で前月比▲2.0%、輸送機械で同▲0.8%と低下したものの、金属製品で同23.3%、化学工業で同19.8%など多くの産業で上昇した。

鉱工業生産指数の推移



主な産業の鉱工業生産指数 (季節調整済、平成22年=100)



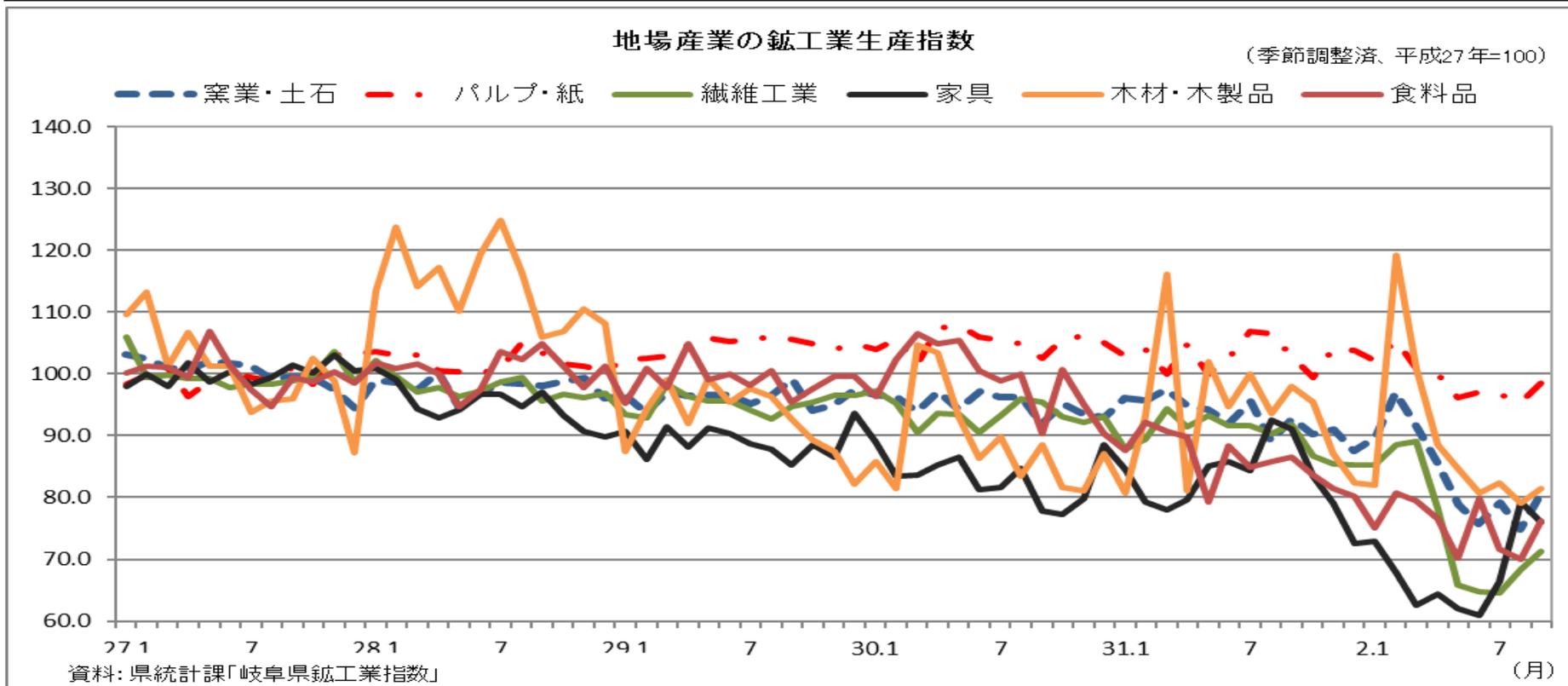
## 現場の動き

(※新型コロナウイルス関連はP6にも掲載)

- ◆自動車関連・外食産業関連向けの需要が徐々に戻ってきたようだが、予断を許さない状況に変わりない。(輸送用機械)
- ◆電子材料関係は引き続き堅調であるのに加え、自動車関連・外食産業関連向けについても若干ではあるが需要が戻ってきたようだ。(輸送用機械)
- ◆MRJの事業凍結が発表されたが、どっぴり契約していたわけではないため、影響は受けていない。(輸送用機械)
- ◆非常に好調。来年2月までは95%程度で推移すると見込んでいたところ、1月には100%に戻ると予測。(輸送用機械)
- ◆仕事の絶対量が減っているため、売上は3割減となっている。来年の3月くらいまで続きそうだ。(生産用機械)
- ◆自動車部品及び建設機械部品は中国経済のV字回復により、輸出量が急伸している。一部の油圧部品はコロナ禍前を上回る量となっている。(生産用機械)

## 製造業-2

○9月の地場産業(刃物を除く)の鉱工業生産指数は、家具で前月比▲4.2%と低下したものの、食料品で同8.7%、窯業・土石で7.9%、繊維工業で同4.4%、パルプ・紙で同2.2%、木材・木製品で同3.0%と上昇した。



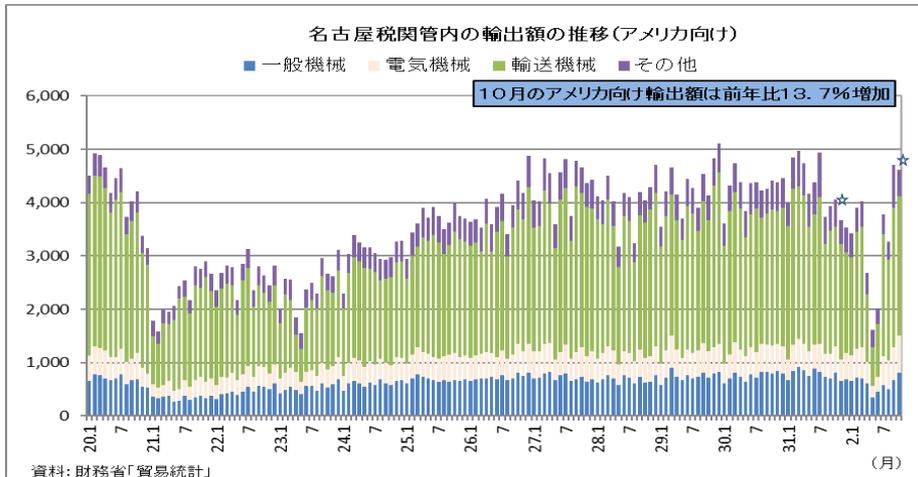
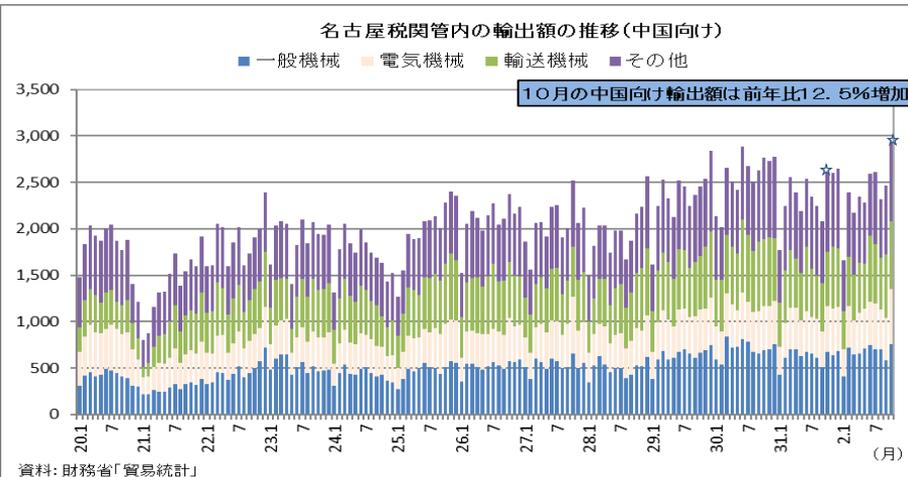
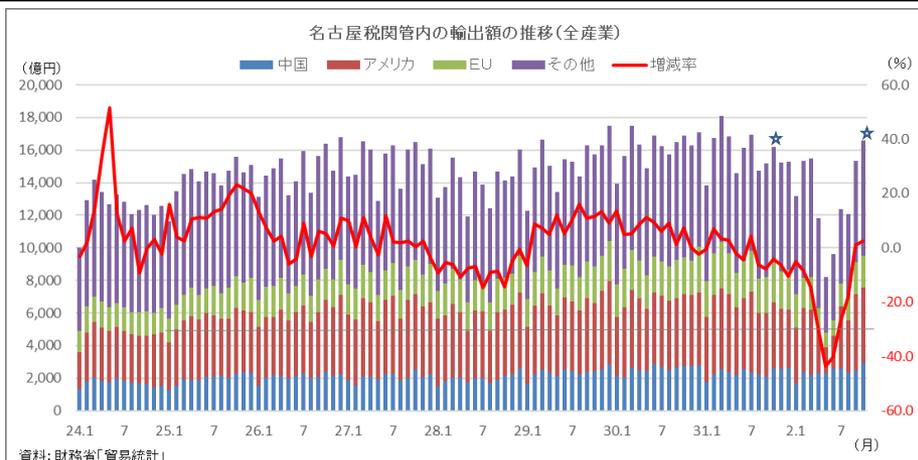
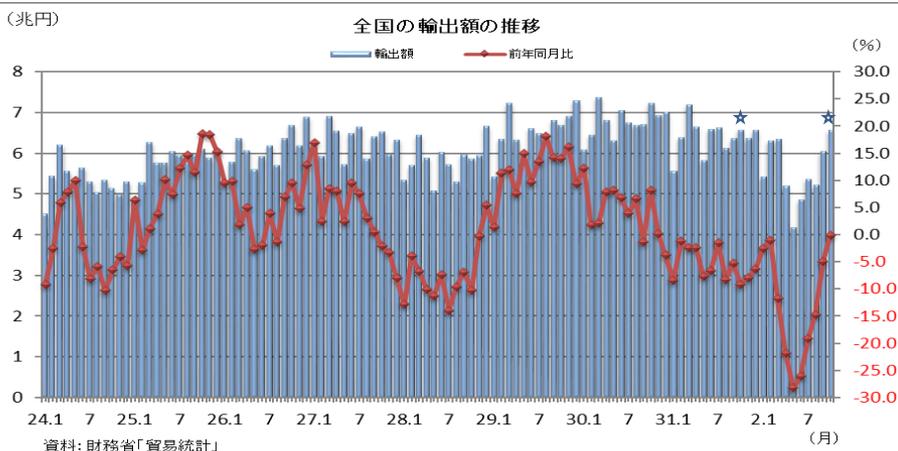
### 現場の動き

(※新型コロナウイルス関連はP6にも掲載)

- ◆ 夏は最悪の状況であったが現在は回復傾向にある。特に輸出が回復してきている。(窯業)
- ◆ 包丁は大きな需要があり、海外でのネット販売が好調。2年待ちになっている商品もある。(刃物)
- ◆ マスクや紙石鹼などの衛生関連の売りが伸びている一方で、おみやげ物関連が特に落ち込んでいる。トータルでは、前年同月比で1割程度の減少となっている。(紙)

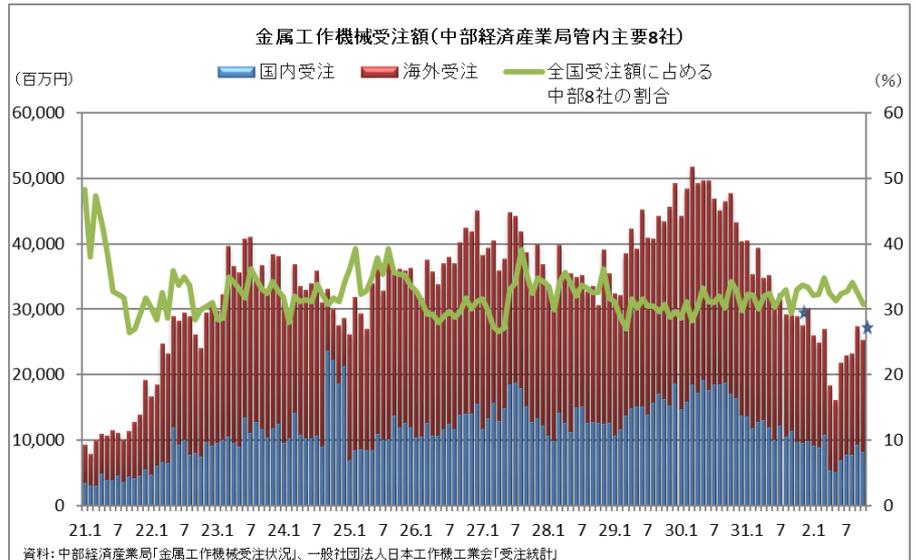
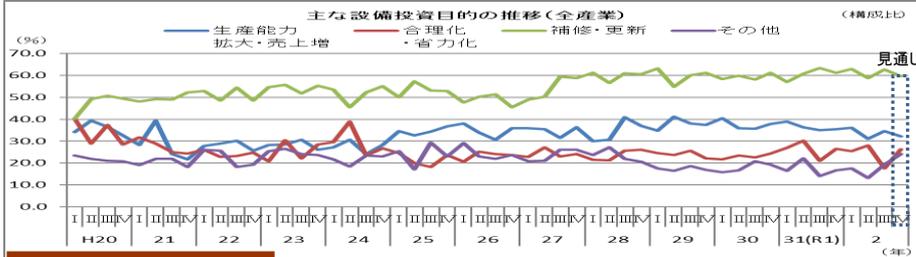
# 輸 出(名古屋税関管内)

- 10月の輸出額(全国)は、6兆5,658億円と前年同月比▲0.2%と23ヶ月連続で減少となった。
- 10月の輸出額(名古屋税関内)は、1兆6,610億円と前年同月比2.5%と増加し、2ヶ月連続で前年同月を上回った。
- 中国向けは、全体で前年同月比12.5%増加した。その内、輸送用機械で前年同月比24.6%、電気機械で同21.5%、一般機械で同11.5%増加した。アメリカ向けは、全体で前年同月比で13.7%と増加し、2ヶ月連続で前年を上回った。その内、電気機械で同36.9%、輸送機械で同17.5%、一般機械で同0.2%増加した。



# 設備投資

- 10-12月期の設備投資実施見通しは前期比▲0.5ポイント低下、設備投資意欲DIは同5.0ポイント上昇。設備投資実施見通しの目的別では、「補修・更新」で前年同月比▲3.1ポイント、「生産能力拡大・売上増」で同▲2.3ポイント低下し、「合理化・省力化」で同10.6ポイントと上昇した。
- 10月の金属工作機械受注額は、全体では前年同月比▲12.3%と24ヶ月連続で前年を下回った。内訳は国内受注では同▲15.3%と23ヶ月連続、海外向けは同▲10.8%と2ヶ月ぶりに前年を下回った。



## 現場の動き

(※新型コロナウイルス関連はP6にも掲載)

- ◆ 自動車向けの製品を量産するため、来年4月に設備を導入する予定。(輸送用機械)
- ◆ 国内で新工場を新設予定だが、国のサプライチェーン補助金は不採択となった。(輸送用機械)
- ◆ 一部の建物が老朽化しており更新の必要性を感じているが、このようなコロナ禍の状況を勘案して様子見している。(生産用機械)
- ◆ 全体的に企業の設備投資は延期の傾向にあるが、一部ではこれまで中止していた設備投資を再開させる動きも見られる。(金融機関)
- ◆ 自動車製造業は回復しているが、脱炭素化の話もあるため、生産ライン等の機械製造業では、新規設備の導入に慎重になっている面がある模様。(金融機関)

## 製造業関係における新型コロナウイルスの影響について

- ◆ 国内、海外ともに、コロナ禍前に予定していた程度まで業績は回復している。(輸送用機械)
- ◆ 渡航制限が徐々に緩和されつつあり、駐在員の人事異動や新規外国人実習生の就業が可能となる見込み。(輸送用機械)
- ◆ コロナ禍前と同水準まで売上は回復しているほか、製品によっては増加傾向にあるものもある。(輸送用機械)
- ◆ 自動車部品製造については回復したものの、航空機部品製造は3割から4割減、建設機械製造が例年並み、その他が1割から2割減となっており、全体で見ると2割から2割5分減となっている。(輸送用機械)
- ◆ 国内工場の稼働率は7~8割くらいであり、2ヶ月前から変わっていない。新型コロナウイルスの第1波の落ち込みが、まだ挽回できていない。(電気機械器具)
- ◆ 12月までは前年同月比を上回る見込み。コロナ禍で止まっていた動きが戻り、現在は在庫を補填している。残業も発生し、従業員へのボーナスも出せる状態まで回復。(非鉄金属)
- ◆ 工場の稼働率は2ヶ月前の6割に比べ、8割程度まで回復した。工作機械、産業機械の受注も、若干上向きになりつつある。(生産用機械)
- ◆ 設備投資については慎重な姿勢が続いており、需要先の景気回復が波及してくるまでにはまだ時間がかかる見通し。(生産用機械)
- ◆ コロナ禍の影響により大手企業が採用を控えているため、厳しい状況ではあるが以前より採用しやすくなっていると感じる。(プラスチック製品)。
- ◆ 昨年度と比較し、半分以下の売上しかない。春~夏の時期以上に落ち込んでいる。(繊維)
- ◆ かなり悪化している。前年比40%程度しか売れていない。コロナ禍により世の中が変わっており、このままでは小売店舗が全て閉まってしまうのではないかと危惧している。(繊維)
- ◆ 業界全体としては、10~12月の需要期にもかかわらず出荷量が少ない。外食業界が芳しくないことが原因。(陶磁器)
- ◆ 同じ包丁でも、業務用包丁と家庭用包丁では売れ行きが異なる。外食自粛のため、業務用包丁の売れ行きは悪く、家庭用包丁の売れ行きは良い。業務用包丁から家庭用包丁への転換は、技術上は簡単だが、販路の開拓や競争が困難であり、転換のための投資資金も必要のため、なかなかハードルは高い。(刃物)
- ◆ 感染症対策のため、公共交通機関を使わなくても営業ができるよう、社用車を増やした。(紙)
- ◆ 抗ウイルス関連の需要が増加している。また、使い捨て製品(例えば化粧品の商品パッケージ等)に使われる素材が、プラスチックから再生可能な素材に変わってきており、紙の需要が高まっている。(紙)
- ◆ 例年は4月に定期昇給を行うが、今年度はできる状況ではなかったため、コロナの影響が一時落ち着いた10月に昇給をした。(木工)

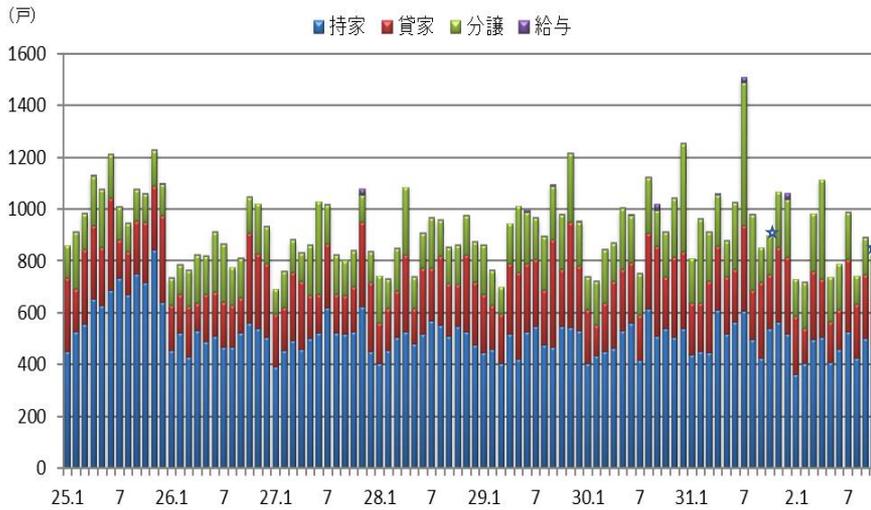
# 住宅・建築投資

○10月の住宅着工戸数は、前年同月比▲8.9%と前年同月を下回った。

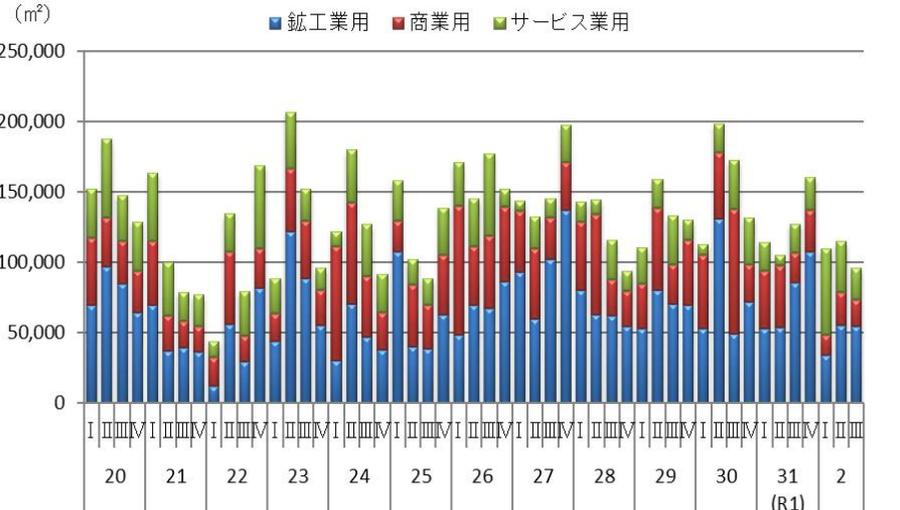
○分譲で前年同月比10.5%と増加したものの、貸家で同▲17.8%、持家で同▲11.2%と減少した。

○7-9月期の非居住用の建築着工床面積は、サービス業用で前年同期比9.8%と増加したものの、鉱工業用で同▲36.2%、商業用で同▲10.8%と減少したことから全体としては同▲24.6%と減少した。

新設住宅着工戸数の推移



県内建築着工床面積(非居住用・用途別抜粋)

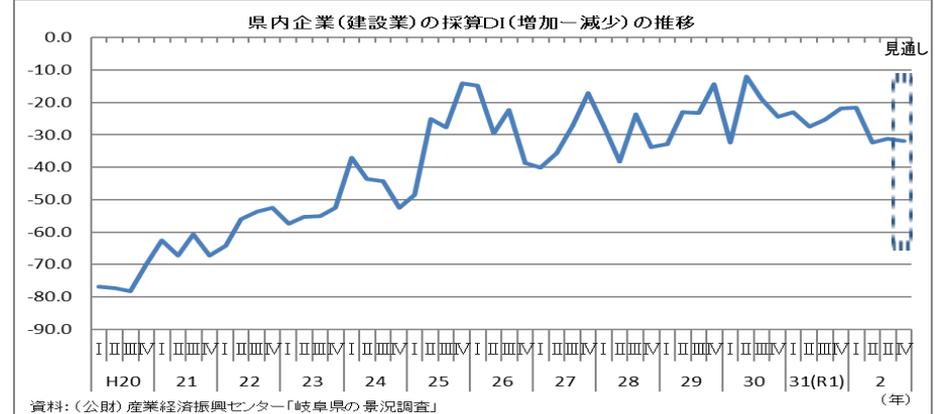
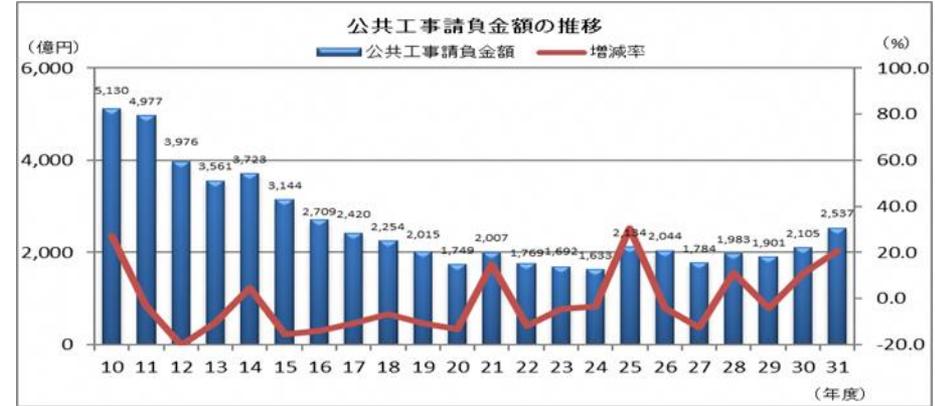
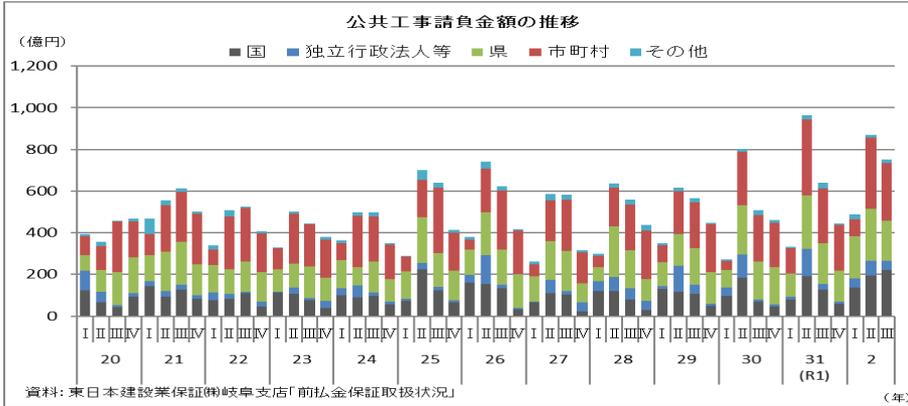


## 現場の動き

- ◆ 第3波の影響はなく、11月の三連休も堅調に集客できた。(住宅建築)
- ◆ 前年同期と比べると売り上げは上がっている。4月頃は今後の業況悪化を想定していたが、決して景気が良い訳ではないがものの、他の業種よりもコロナ禍の影響は少ない。(木材加工)
- ◆ 建築について公共物件の発注が少ない。現在のところコロナ禍の影響はなく、11月は落ち着いているが12月には忙しくなる見込み。(組合)

# 公共工事

- 7-9月期の発注者別の公共工事請負金額は、県で前年同期比▲3.4%と減少したものの、国で同75.1%、独立行政法人等で同64.5%と増加し、全体で同17.6%増加した。
- 県内建設業の10-12月期の受注量DI見通しは前期比6.1ポイントと上昇、同採算DI見通しは同▲0.5ポイントと低下した。



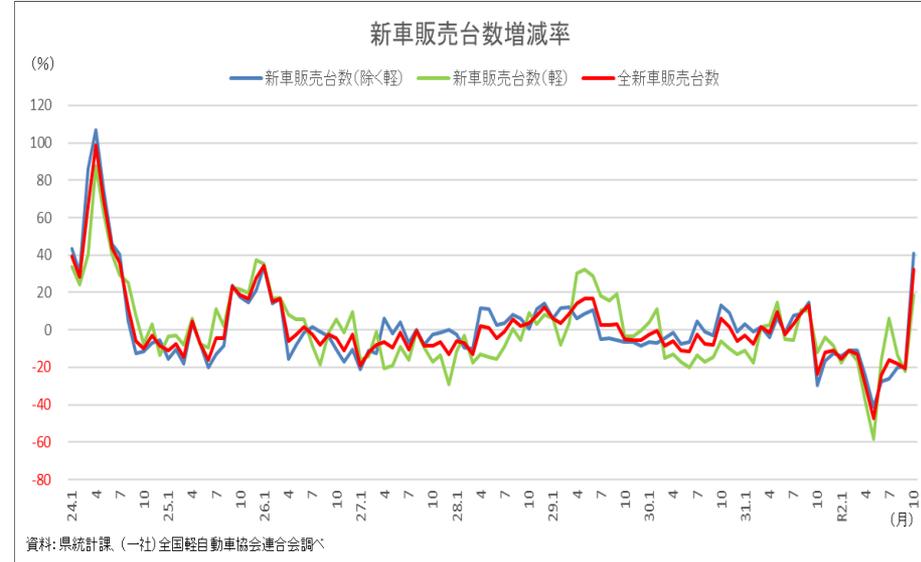
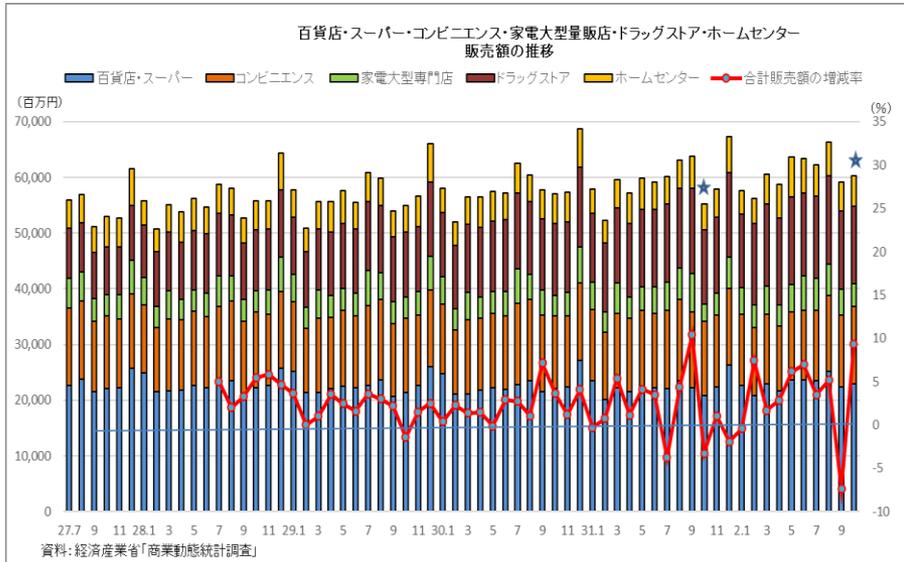
## 現場の動き

- ◆ 技術者の作業時間を減らすことは容易ではないが、働き方改革のため残業を減らす取り組みは加速させる必要がある。そのため、技術者の書類作成業務を内勤者で補助するなど、仕事の平準化を図っている。
- ◆ 現場の調整等で工期が若干遅れ気味になっている。(以上、建設)

# 個人消費(流通・小売)

○10月は家電大型専門店で前年同月比32.9%、ホームセンターで同20.1%、百貨店・スーパーで同10.1%ドラッグストアで同4.4%、コンビニで同4.0%、と増加し、全体では同9.3%と増加した。

○10月の新車販売台数(除く軽)は、前年同月比41.1%と13ヶ月ぶりに前年同月を上回り、軽自動車も同18.8%と前年同月を上回った。  
○合算では同32.2%と、13ヶ月ぶりに前年同月を上回った。



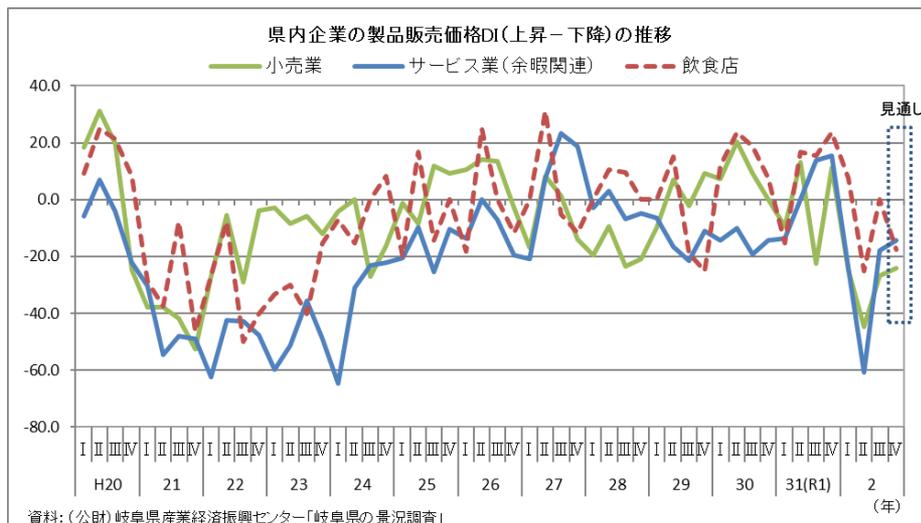
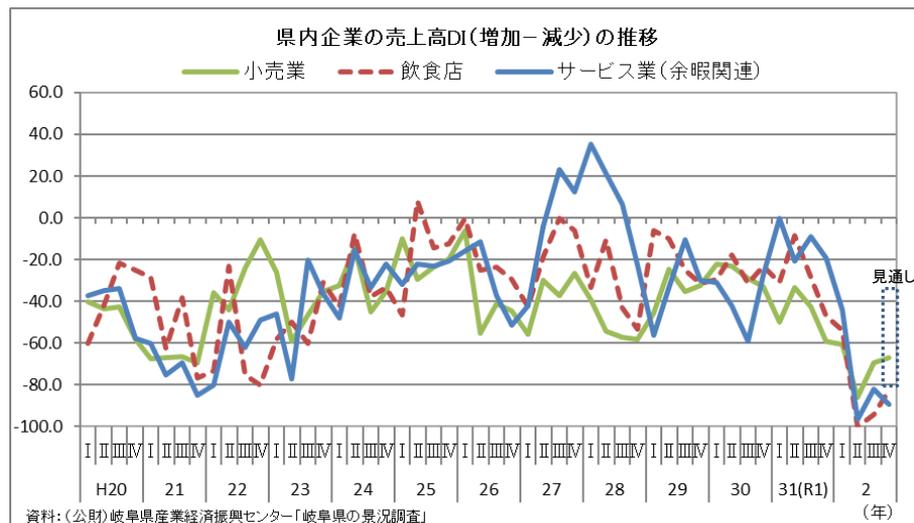
## 現場の動き

- ◆ 新型コロナウイルス感染症拡大の第三波が来ており、客数、売り上げともに想定よりも伸びなかった印象。一方、館内にはGoToイートのおかげで、去年並みの売り上げに戻せた飲食店もある。(岐阜市内大型商業施設)
- ◆ 前年比で客数は減少、売上は前年比増加と、ここ何ヶ月は傾向が変わらない。会社の方針でチラシを減らしているので、目玉商品が少なくなっており、その分客足が減っているのではないかと考えている。(岐阜市内大型スーパー)
- ◆ 春先に新型コロナウイルスの感染が拡大したころは乾麺等の商品が店頭で品薄になった。足元では再び感染が拡大しているが、当時の経験から商品不足にならないように発注している。(大垣市内大型商業施設)

## 個人消費(流通・小売)－2

○10－12月期の売上高DI見通しは、飲食店で前期比11.7ポイント、小売業で同2.7ポイント上昇し、サービス業(余暇関連)で同▲7.1ポイント低下した。

○同じく販売価格DI見通しは、サービス業(余暇関連)で前期比3.6ポイント、小売業で同2.7ポイント上昇し、飲食店で同▲17.6ポイント低下した。



### 現場の動き

- ◆ 衣料品店は前年同月比▲25%。昼間の人通りは回復の兆しが見られるが、夕方以降は人が減り、商店街も時短営業状態が続いている。県補助金による賑わい回復事業は、大変な盛り上がりを見せ、今後に向け大いに期待感を感じた。(柳ヶ瀬商店街)
- ◆ 日用品・雑貨店の売上は前年同月比▲20%程。コロナ禍による景気低迷が継続しており、個人向け、法人向け共に厳しい。和菓子店は同▲20%程。イベントがない日は売上の落ち込みが激しい。(大垣市商店街)
- ◆ 酒店の売上は前年同月比で横ばい。新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、会社単位での会食や飲み会がほぼ無くなり、11月は厳しい状況に逆戻りした。家飲みの需要が増えたことで酒類の売上は微減に留まっている。時計・宝石店の売上も横ばい。新型コロナウイルス感染拡大の影響はほとんどなく、コロナ禍前から業界的には不景気が続いており、前年同月とほぼ変わらない売上となった。(多治見市商店街)

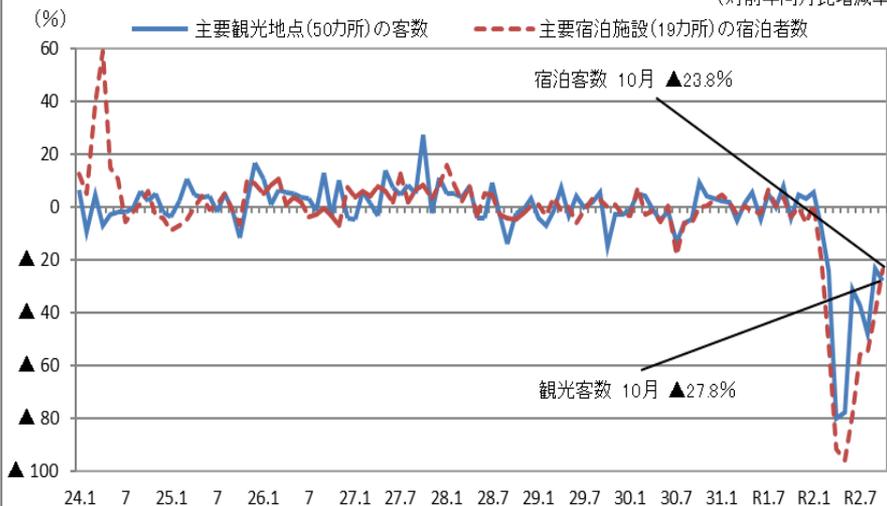
# 観光

○主要観光地における10月の観光客数は、前年同月比▲27.8%と減少し、9ヶ月連続で前年同月を下回った。主要宿泊施設における宿泊者数は、前年同期比▲23.8%と減少し、9ヶ月連続で前年同月を下回った。

○10月の主要観光施設における外国人宿泊者数は、前年同月比で▲99.9%と大幅な減少が続いており、9ヶ月連続で前年同月を下回った。

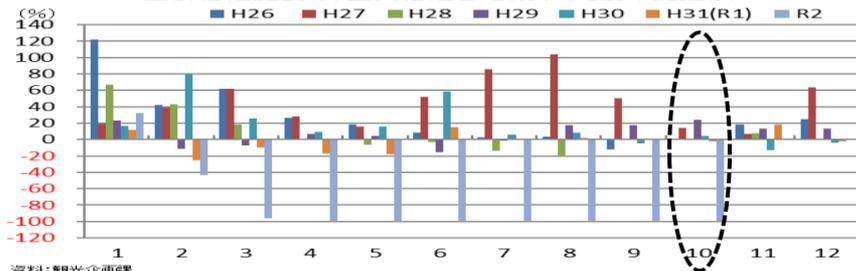
主要観光地点の客数及び主要宿泊施設の宿泊者数の推移

(対前年同月増減率)



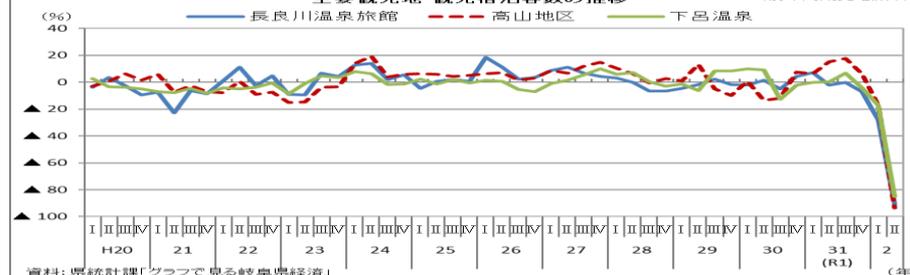
資料:観光企画課

主要宿泊施設 外国人宿泊客増減率(対前年比推移)



主要観光地 観光宿泊客数の推移

(前年同期比増減率)

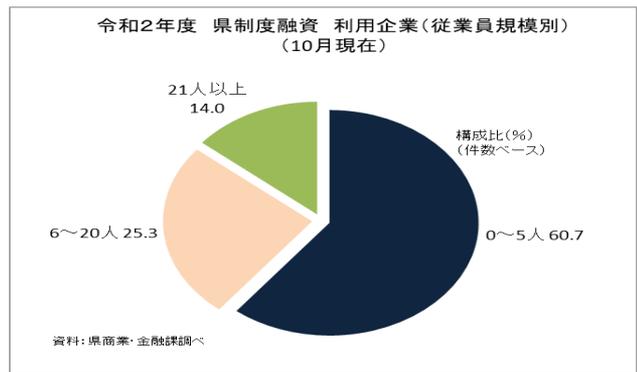
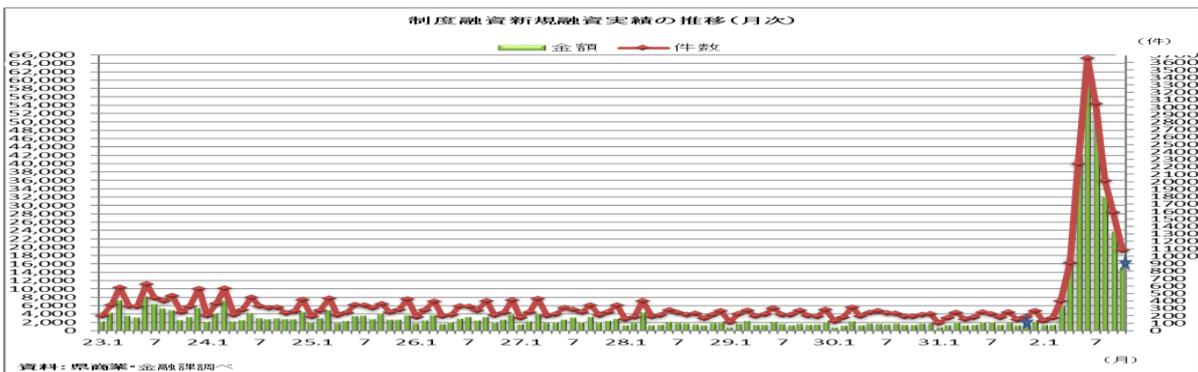
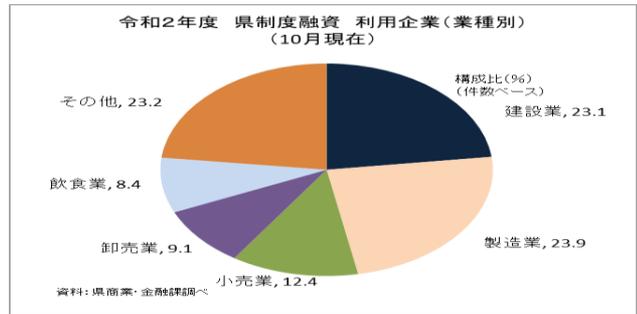
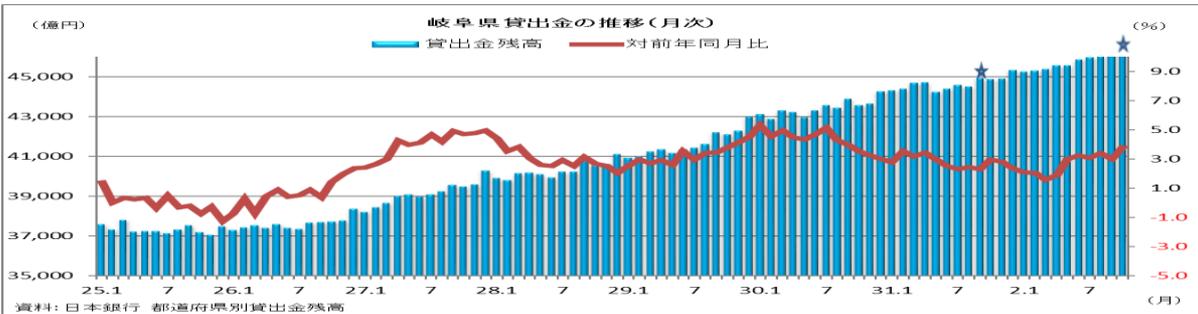


## 現場の動き

- ◆休前日の宿泊はとて多く感じられるようになった。(岐阜市内の宿泊施設)
- ◆ネット予約は直前に入ってくるが多い。(岐阜市内、多治見市内の宿泊施設)
- ◆ネット予約が2/3を占めており、対面がメインの旅行業者は苦戦していると聞いている。(下呂市内の宿泊施設)
- ◆2月以降のGoToトラベルの継続を早く打ち出してほしい。(高山市内の宿泊施設)
- ◆GoToトラベルで売上は増加したが、地域共通クーポンやチェックイン対応が増えているので大変。(奥飛驒の宿泊施設)
- ◆来期の新卒者の応募の動きが全くなく、企業と求職者とのギャップを感じている。(下呂市内の宿泊施設)
- ◆インバウンドの早い回復を信じて、春に3名外国人を採用する。(奥飛驒の宿泊施設)

# 資金繰り

○10月の岐阜県貸出金残高は、4兆6,597億円で前年同月比3.8%とプラス基調が続く。  
 ○10月の制度融資実績は、金額が15,168百万円で前年同月比1,057.3%と増加した。件数は1,080件で同605.9%と増加した。  
 ○従業員規模別は、5人以下の事業所が全体の60.7%を占めている。

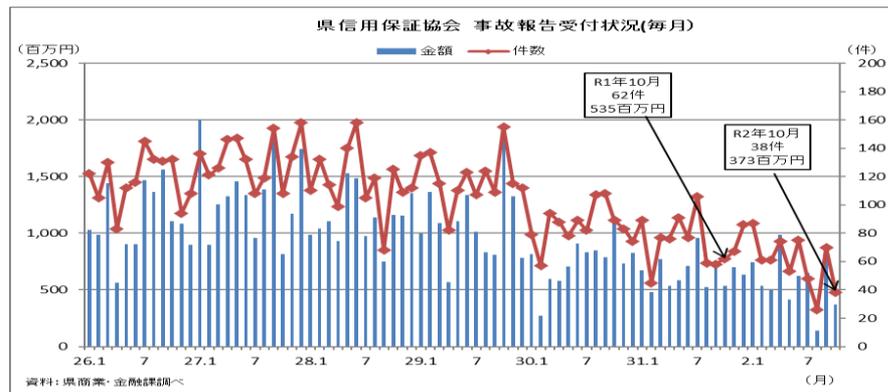
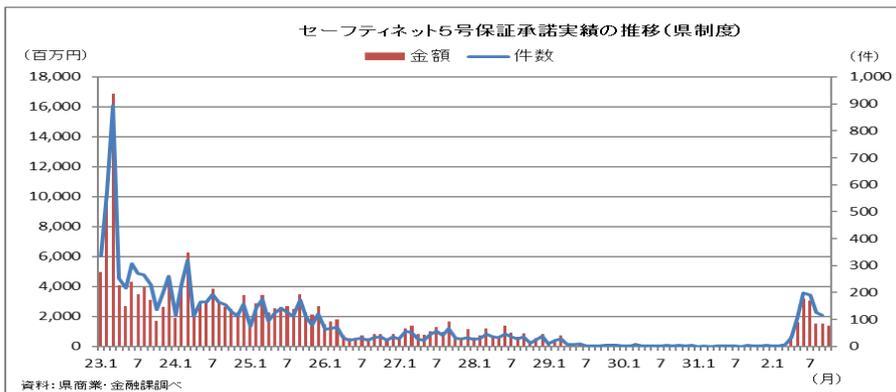
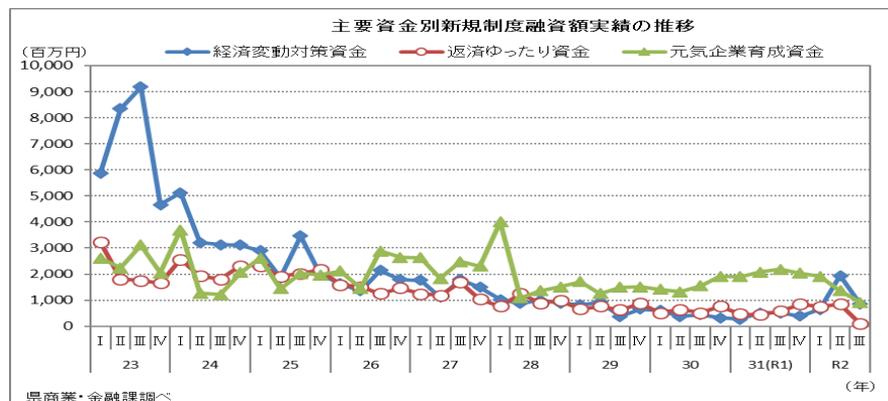
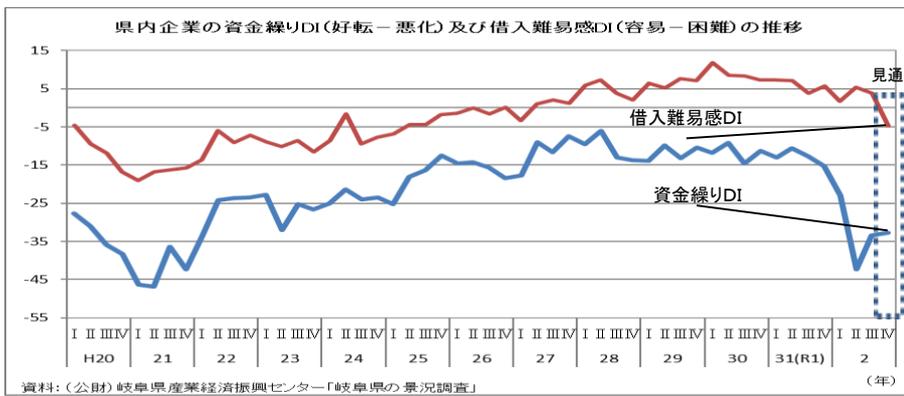


## 現場の動き

- ◆ 売上水準が回復傾向にあることやこれまでの融資で資金調達できていることから、新型コロナウイルス関連の融資の申込みは落ち着いている。これまでは目先の運転資金確保を目的とした融資が多く、コロナ一辺倒だったが、11月は開業資金や事業承継に必要な資金など、少し先を見据えた目的での融資も出てきており、変化が出てきた。
- ◆ 新型コロナウイルス感染症拡大の第三波の影響はまだ特段耳にしておらず、比較的落ち着いていると思われる。今後、年末に向けてどうなるかといったところであり、状況を注視していく。(以上、金融)

# 資金繰り-2

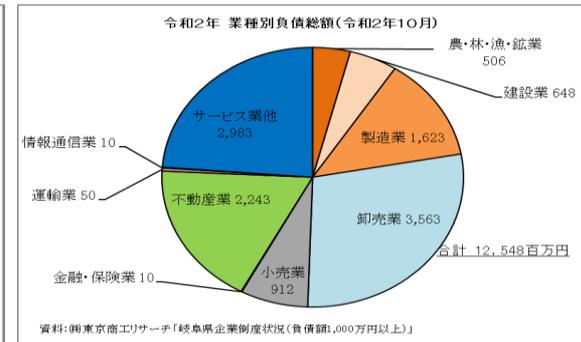
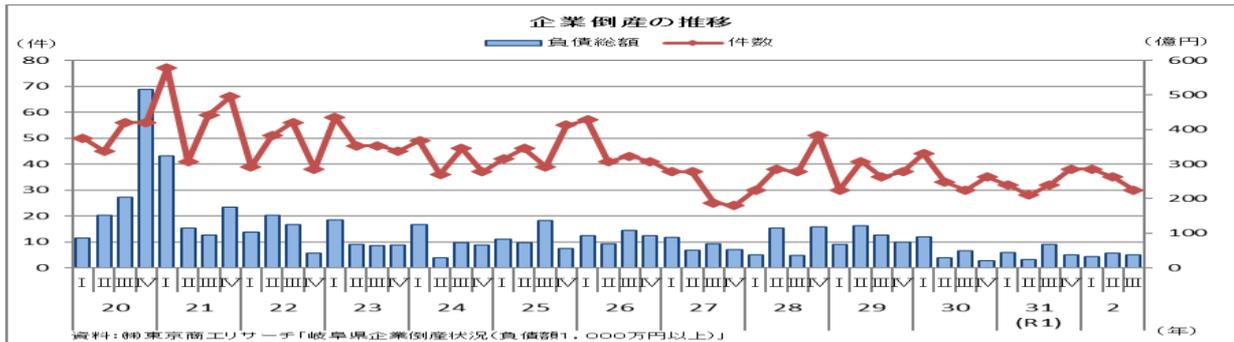
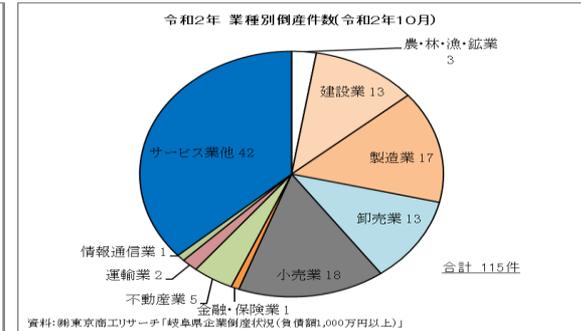
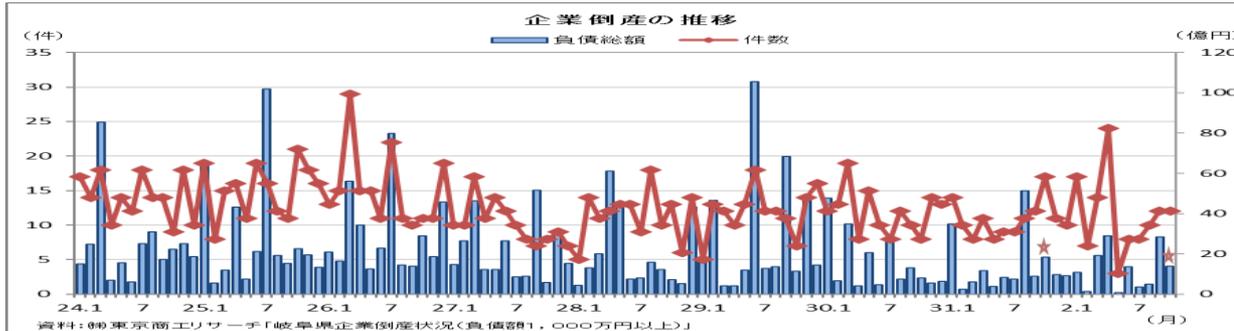
- 10-12月期の資金繰りDI見通しは▲32.7で、前期比0.8ポイント改善した。同借入難易感DI見通しは▲4.7で、同▲8.5ポイント悪化した。
- 7-9月期の主要資金別新規制度融資実績は、経済変動対策資金で前年同期比66.6%と6期連続で増加、返済ゆったり資金で同▲84.9%と5期ぶりに減少、元気企業育成資金で同▲58.1%と2期連続で減少となった。
- 10月のセーフティーネット5号保証承諾実績は、件数が109件で前年同月比108件増加、金額は1,405百万円で同1,399百万円増加した。
- 10月の事故報告(保証協会付融資3ヶ月以上延滞)状況は、件数は38件で前年同月比▲38.7%と減少し、金額も373百万円で同▲30.2%と減少した。



# 倒産

○10月単月の倒産件数は前月比と同数の12件、負債総額は前月比1,463百万円減少の1,385百万円となった。

○1月から10月までの累計倒産件数は115件となり、前年同期の109件から6件増加。累計負債総額は12,548百万円となり、前年同期の15,315百万円から2,767百万円減少で推移した。



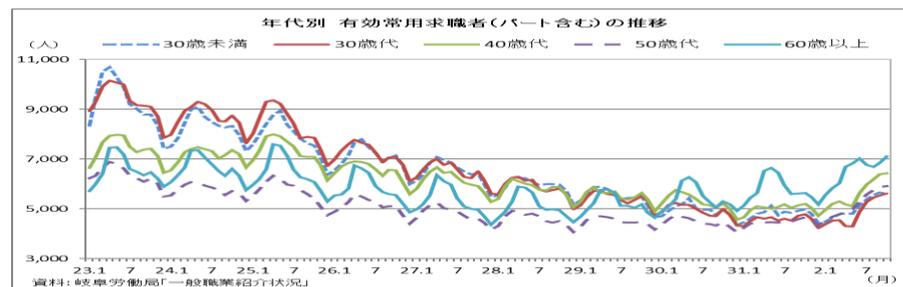
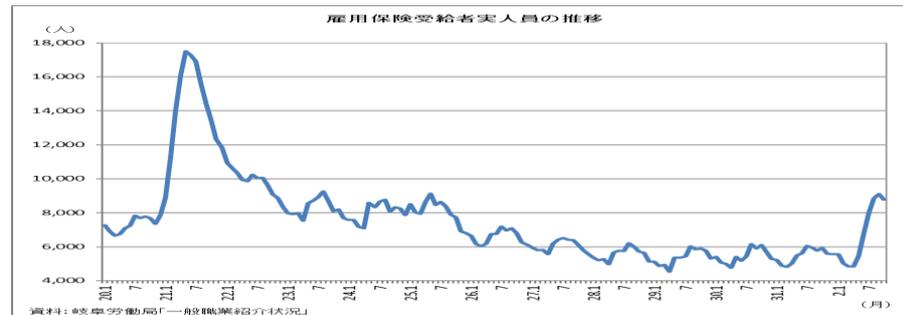
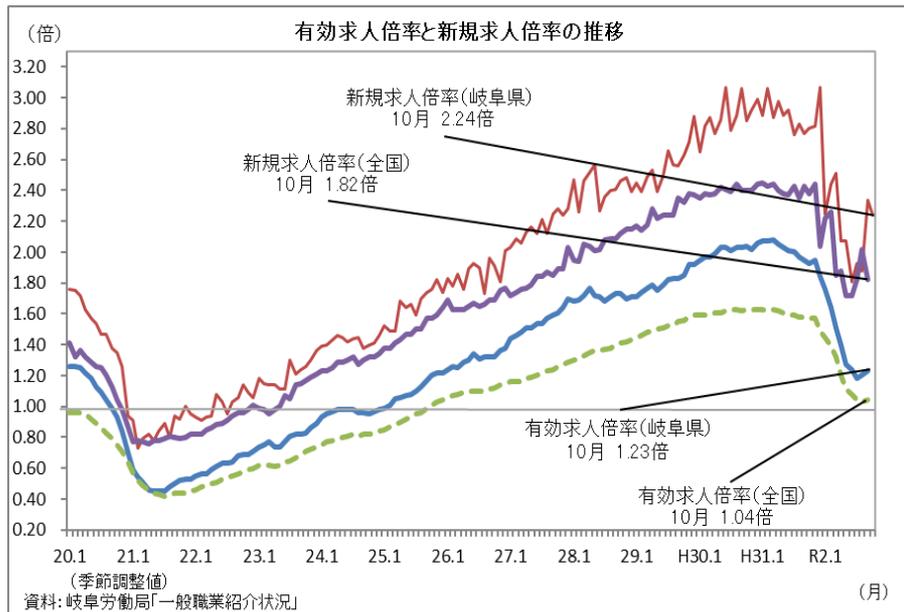
## 専門機関の分析(東京商工リサーチ)

- ◆令和2年10月度は負債総額10億円の倒産が発生したものの、負債総額1億円未満の小口倒産が大半を占めたため、件数・負債総額共に減少となった。
- ◆事業環境の悪化が長引き、「新型コロナウイルス」対応の追加融資やリスクの見直しなども本格化している。政府や自治体による資金繰り支援効果の息切れが指摘される一方で、追加融資を続ければ、将来の過剰債務に繋がる可能性もある。体力の乏しい中小・零細企業を中心に脱落のペースが加速する中で、新たな支援策のあり方が課題となっている。

# 雇用

- 10月の有効求人倍率は1.23倍と、前月比0.03ポイントと2ヶ月連続で上昇。
- 10月の新規求人倍率は2.24倍と前月比▲0.1ポイントと低下。

- 10月の雇用保険受給者人員は、前月比▲3.9%と減少した。
- 年代別有効常用求職者は、全ての年代において5ヶ月連続で前年同月比増加した。



## 現場の動き

- ◆派遣社員の欠員を補充するため人材会社へ求人を出したが、1週間経っても求職者からの応募がない状況。(食品製造)
- ◆女性社員の賃上げを検討している。(輸送用機械)
- ◆部署により人材の過不足感に差があるため、部署間で異動させて対応している。(輸送用機械)
- ◆生産調整、雇用調整は8月の上旬で終わり、現在は残業や休日出勤も発生している。(輸送用機械)
- ◆外国人技能実習生の受け入れを再開。タイからの受け入れが確定している。また、パジェロ製造の合同企業ガイダンスに出席。生産管理のできる人材であれば何人でも確保したい。(輸送用機械)
- ◆他企業からお手伝いという形で出向いただいている。(生産用機械)

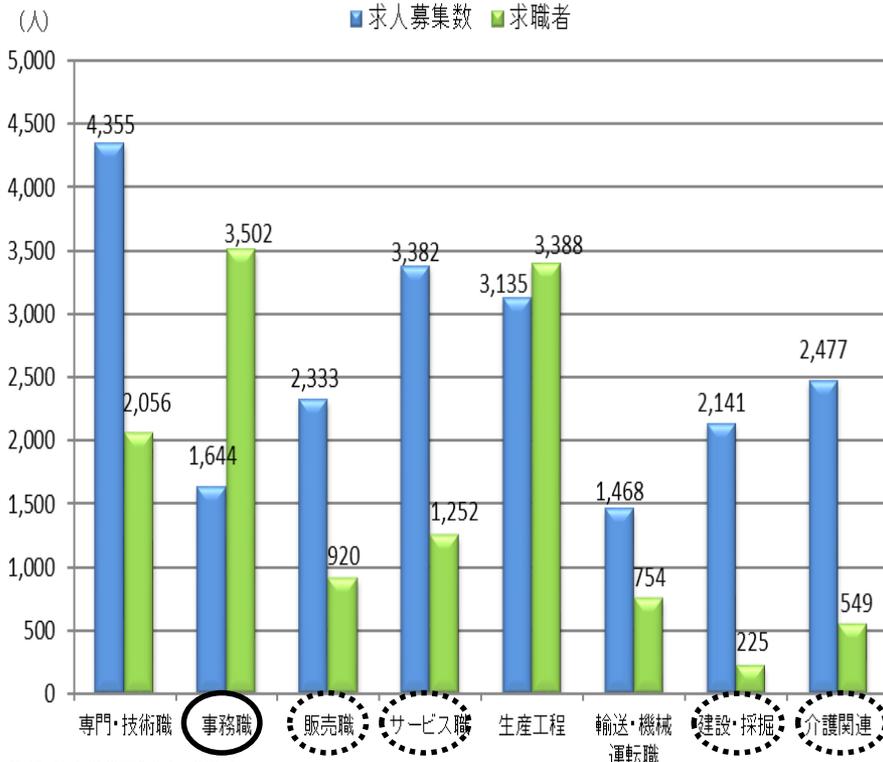
# 雇 用(職業別)

○有効求人倍率は、建設・採掘で9.52倍、介護関連で4.51倍、サービス職で2.70倍、販売職で2.54倍など、引き続き人手不足の状況は続いている。

○一方で、事務職の有効求人倍率は0.47倍に留まり、求職者のニーズと、求人側のニーズのミスマッチが続いている。

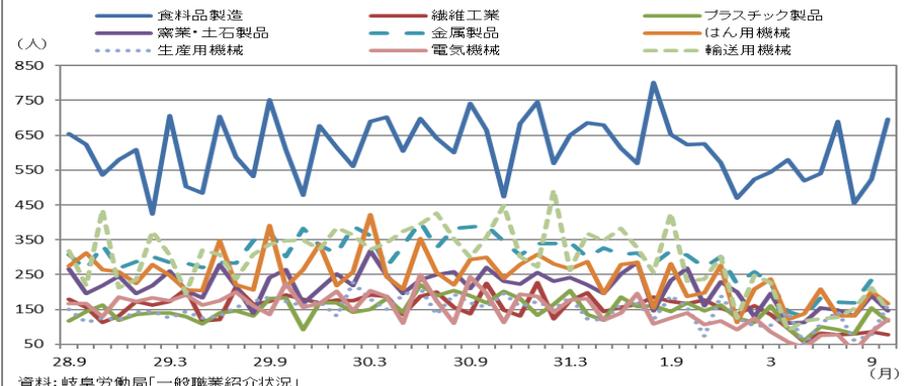
○10月の主要産業新規求人数は、食料品製造で前年同月比11.5%、生産用機械で同3.8%と増加したものの、繊維工業で同▲53.9%、窯業・土石製品で同▲45.5%、輸送用機械で同▲36.2%、プラスチック製品で同▲30.8%、金属製品で同▲29.4%、電気機械で同▲12.2%などと主要産業の多くで減少した。

10月 職業別有効求人募集数・有効求職者数(常用的フルタイム)

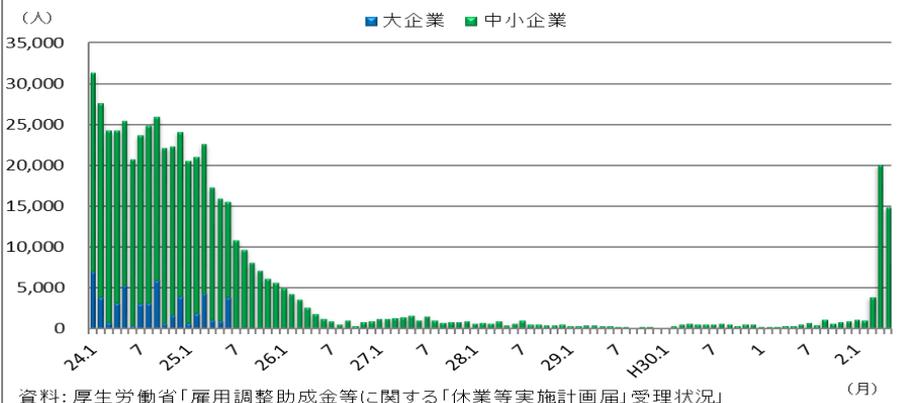


資料: 岐阜労働局「求人・求職」バランスシート

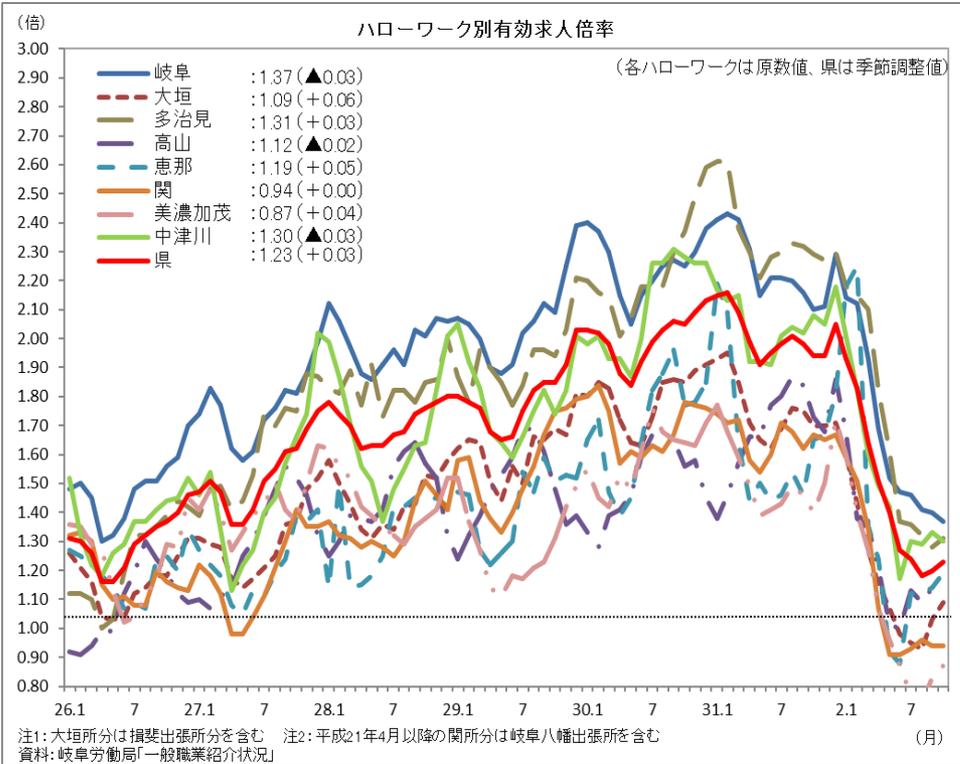
主要産業別 新規求人数(一般+パート)推移



雇用調整助成金の申請状況



# 雇用(地域別)



○10月のハローワーク別有効求人倍率は、関と美濃加茂で1倍未満で推移している。前月比では、岐阜、高山、中津川を除く地域で上昇した。

## 現場の動き(前月比)

### <ハローワーク岐阜>

- ◆求人者数はやや減少、求職者数は減少。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

### <ハローワーク大垣>

- ◆求人者数は減少、求職者数は横ばい。
- ◆雇用保険受給者数はやや減少。

### <ハローワーク多治見>

- ◆求人者数は減少、求職者数は横ばい。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

### <ハローワーク高山>

- ◆求人者数は減少、求職者数はやや増加。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

### <ハローワーク恵那>

- ◆求人者数は減少、求職者数はやや減少。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

### <ハローワーク関>

- ◆求人者数は増加、求職者数は幻想。
- ◆雇用保険受給者数は横ばい。

### <ハローワーク美濃加茂>

- ◆求人者数、求職者数は減少。
- ◆雇用保険受給者数はやや減少。

### <ハローワーク中津川>

- ◆求人者数はやや減少、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

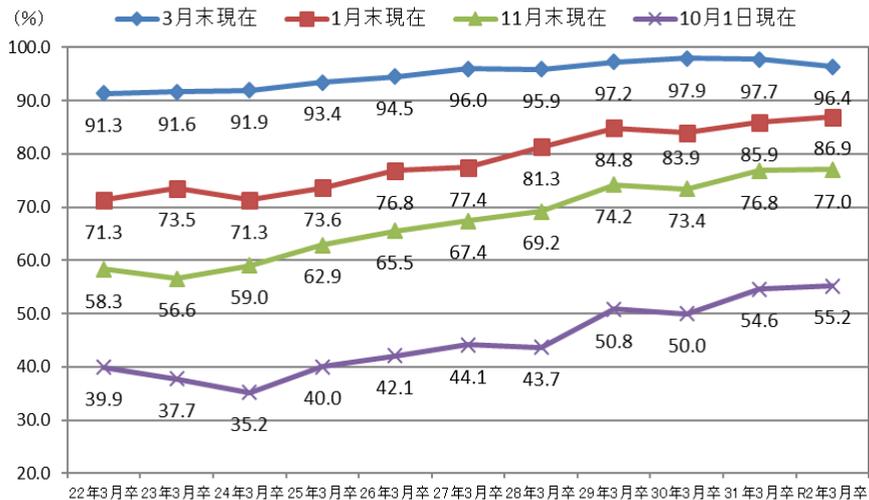
### <窓口の様子>※前月比

- ◆岐阜、高山、関、中津川で混雑傾向がみられた。

# 雇 用(大学・短大新卒者の就職)

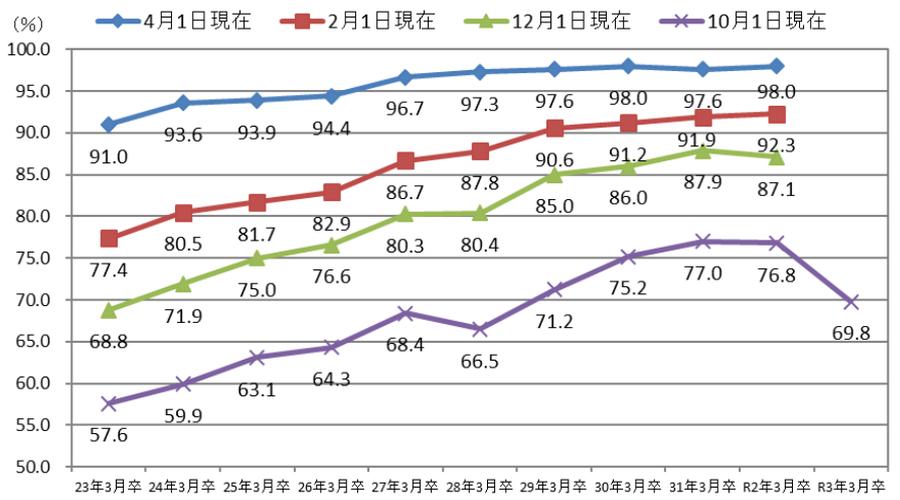
- 岐阜県の令和2年3月末時点の大学・短大卒業者(令和2年3月卒業)の就職内定率は、96.4%であり、前年同時点と比べ▲1.3ポイント低下した。
- 全国の令和2年10月1日現在の大学・短大卒業者(令和3年3月卒業)内定率は69.8%であり、前年同時点と比べ▲7.0ポイント低下した。

新規卒業者(大学・短大等)の就職内定率の推移<岐阜県>



資料: 岐阜労働局「新規学校卒業者(大学・短大等)の就職状況」

新規卒業者(大学)の就職内定率の推移<全国>



資料: 厚生労働省「大学等卒業予定者の就職状況調査」

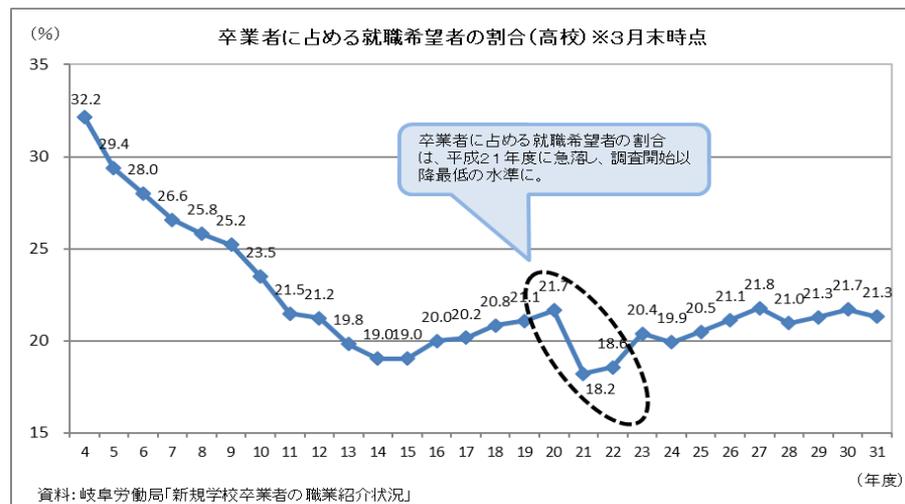
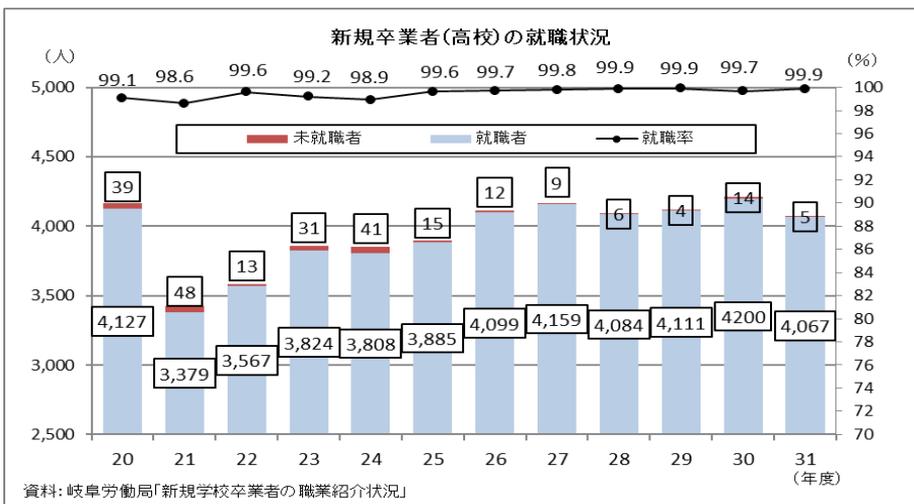
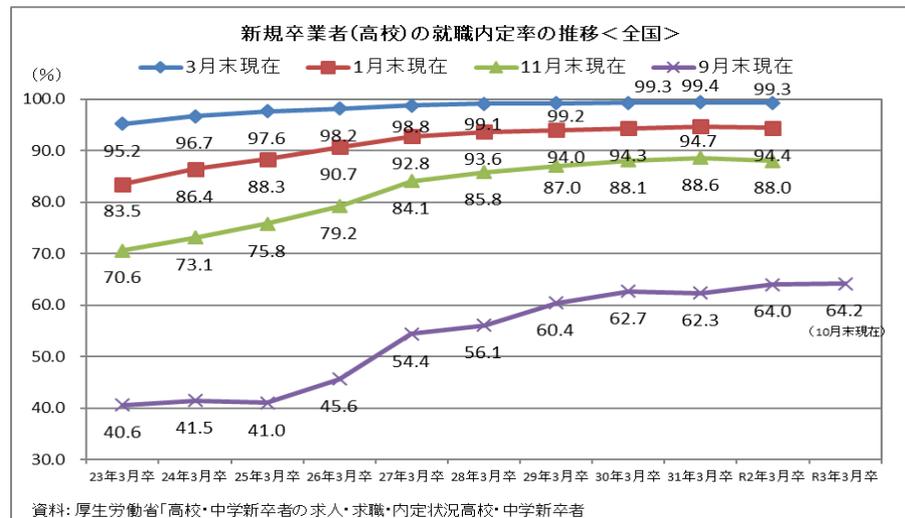
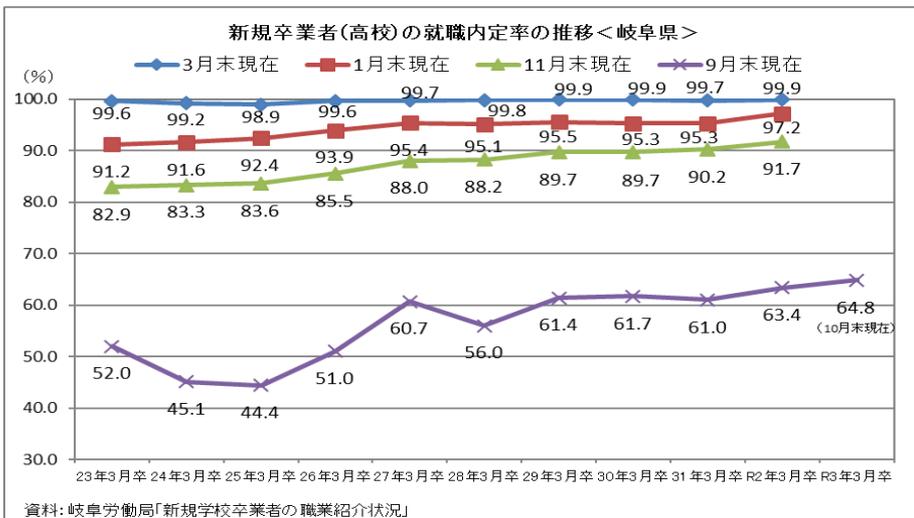
## 現場の動き(2021卒の動きなど)

### <大学へのヒアリング>

- ◆ 21卒の内定率はわからないが相談はかなり少なくなっている。22卒についてはオンラインによるガイダンスを複数回実施したが、集まりが良くない。少人数制で対面形式のES添削、模擬GDも集まりが良くない。
- ◆ 対面が難しいため学生の状況を把握するのが難しい。
- ◆ 21卒の内定状況はおそらく7割程度。昨年よりも状況は厳しい。(以上、岐阜県内大学)
- ◆ 22卒については危機感の強い学生が多い。
- ◆ 22卒向けの合同企業説明会をオンラインで実施する予定。(以上、愛知県内大学)

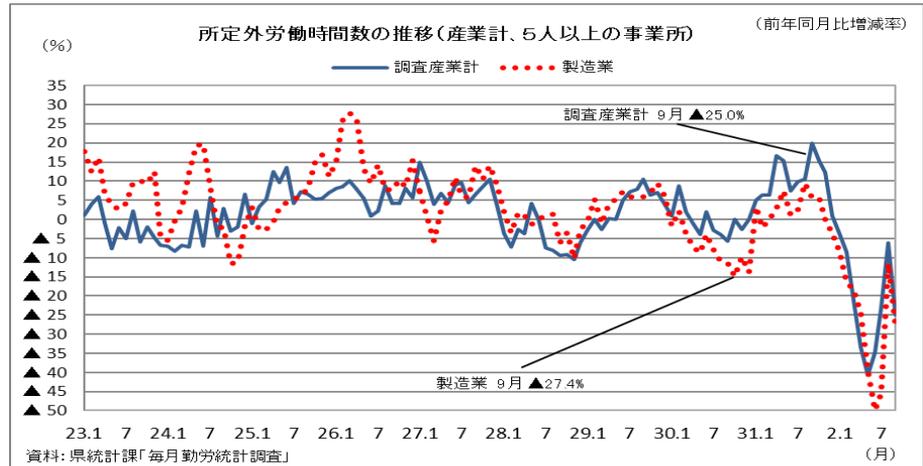
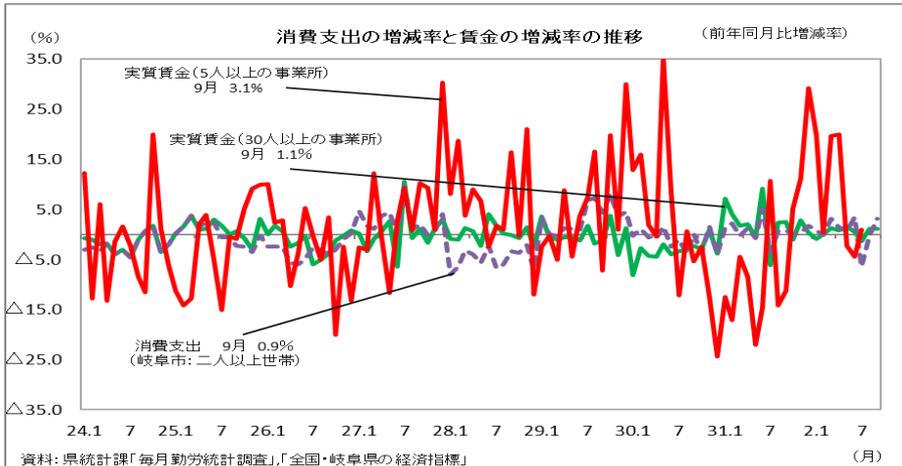
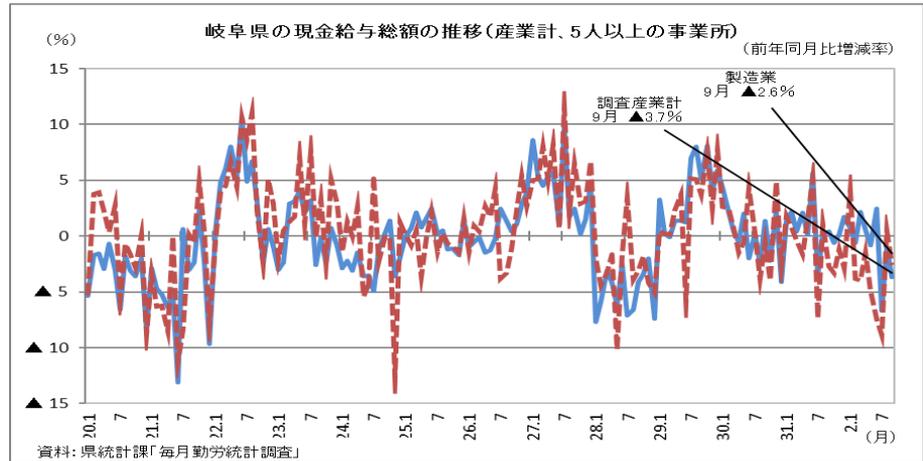
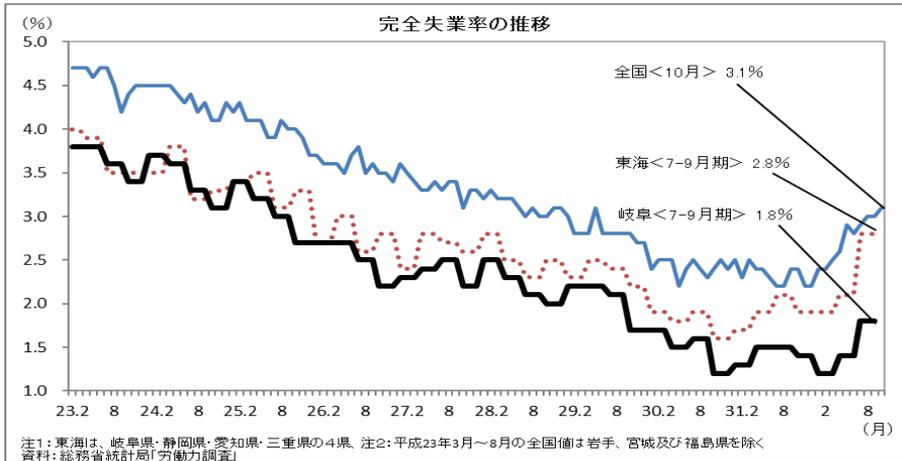
# 雇用(高校新卒者の就職)

- 岐阜県の令和2年10月末時点の高校卒業者(令和3年3月卒業)就職内定率は64.8%であり、前年比で1.4ポイント上昇した。
- 全国の令和2年10月末時点の高校卒業者(令和3年3月卒業)就職内定率は64.2%であり、前年比で0.2ポイント上昇した。



# 雇 用(完全失業率等)

- 全国の10月の完全失業率は3.1%で前月比で0.1ポイント悪化。岐阜県の7-9月期の平均は1.8%で前期比0.4ポイント悪化。
- 9月の現金給与総額は、調査産業計で前年同月比▲3.7%、製造業で同▲2.6%と減少。
- 9月の実質賃金増減率は、5人以上の事業所は前年同月比3.1%、30人以上の事業所は同1.1%増加。9月の消費支出については同0.9%と増加した。
- 9月の所定外労働時間数は前年同月比▲25.0%と9ヶ月連続で減少した。



# ＜経済・雇用の現状（総括）＞

- 製造業は、9月の鉱工業生産指数では、プラスチック製品と輸送機械を除く、主な産業の多くで上昇した。ヒアリングにおいては、中国経済のV字回復により輸出量が急伸しているとの声やコロナ前を上回る状況との声があった一方で、先行きの不透明感を警戒する企業もあった。
- 地場産業は、9月の鉱工業生産指数では、家具を除いて、地場産業の多くで上昇となった。ヒアリングにおいては、ネット販売を含む海外向けの輸出や、衛生関連の売上が好調であるとの声が聞かれた一方で、繊維工業では、昨年度と比較して半分以下の売上しかなく、春～夏の時期以上に落ち込んでいるとの声も聞かれた。
- 設備投資は、10月の金属工作機械受注額について、国内向けで23ヶ月連続、海外向けで2ヶ月ぶり、全体で24ヶ月連続で前年を下回った。ヒアリングにおいては、コロナ禍の状況を勘案して設備投資を様子見しているとする企業があったものの、金融機関からは、一部ではこれまで中止していた設備投資を再開させる動きもみられる、との声もあった。
- 個人消費は、小売店の10月の販売額について、消費増税に伴う駆け込み需要の反動減が見られた前年同月を上回ったものの、ヒアリングにおいては、新型コロナウイルス感染症拡大の第三波の到来により、来客数や売上が想定より伸びなかった、との声もあった。
- 観光は、新型コロナウイルスの影響により観光地、宿泊施設ともに前年同月を下回ったものの、回復傾向が見られる。宿泊施設からのヒアリングでは、休前日の宿泊はとて多く感じられるようになったとの声や、2月以降のGoToトラベルの継続を早く打ち出してほしいとの声も聞かれた。
- 企業の資金繰りは、10月の制度融資実績で、引き続き、件数、金額ともに前年同月比で大きく増加した。金融機関からのヒアリングでは、新型コロナウイルス感染症拡大の第三波による影響は特段耳にしておらず、比較的落ち着いている状況との声があった。
- 雇用面は、10月の有効求人倍率は、1.23倍と2ヶ月連続で上昇した。ヒアリングにおいては、新規の人材募集や出向者の受け入れの動きなど、雇用情勢に回復の兆しが見られた。